

ネットワーク回線網を利用するTV会議システム (特許第4253726号)

技術的特長

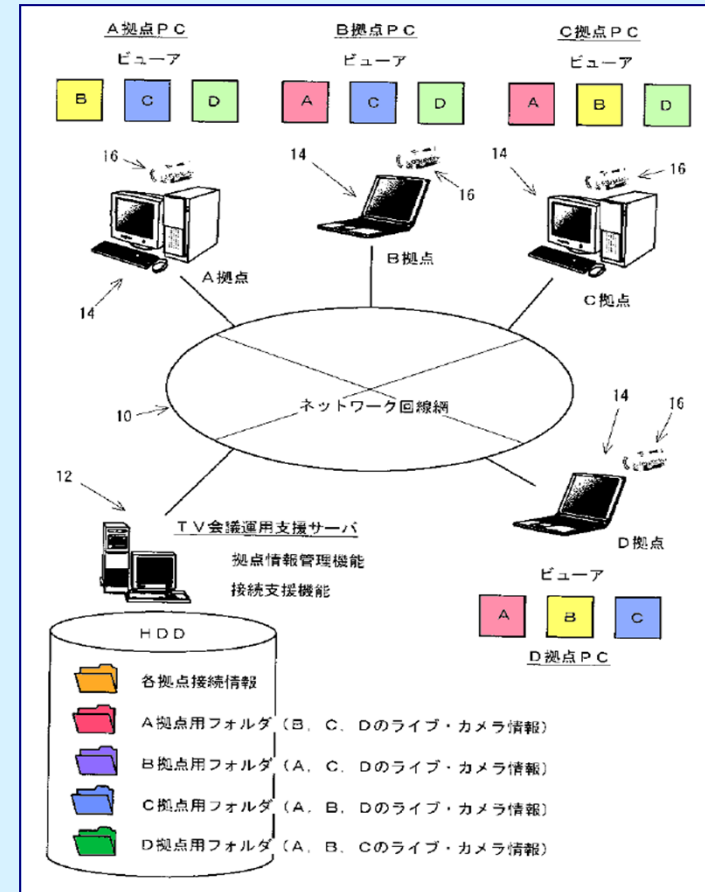
本TV会議システムは、カメラとマイクを備えたPCだけを準備すればよいので、設備費が安価である。1対多の双方向通信が可能で、映像、音声品位も高くスムーズで、会議に出席する拠点数が多くなっても、各拠点PCは自動的に相互接続を確立できることを特長とする。TV会議開会中に、新たに参加、退席を自動的に且つ迅速に行うことができる。

発明の効果

簡便にに会議を開会・閉会でき、更に、運用支援サーバの各拠点用フォルダのライブ・カメラ情報を変更するだけで、TV会議開会中に、新たに参加、退席を自動的に且つ迅速に行うことができる。

【図1】本発明に係るネットワーク回線網を利用するTV会議システムの一実施例を示す全体構成図

- 10.ネットワーク回線網
- 12.運用支援サーバ
- 14.拠点PC
- 16.画像音声入力手段(カメラとマイク)



設備費が安価で、映像、音声共に
高品位なTV会議システム

本特許の活用用途

安価に運用することが出来るシステムなので、専門性を問わず、一般的な社会の中で、極めて効率的な応用が可能である。

・各地に支社を有する企業 ・銀行 ・航空会社
・大学 ・病院 ・鉄道の本社と駅間連絡

ご相談は下記まで御連絡ください

〒319-1184

茨城県那珂郡東海村村松4-49

TEL: 029-282-1122

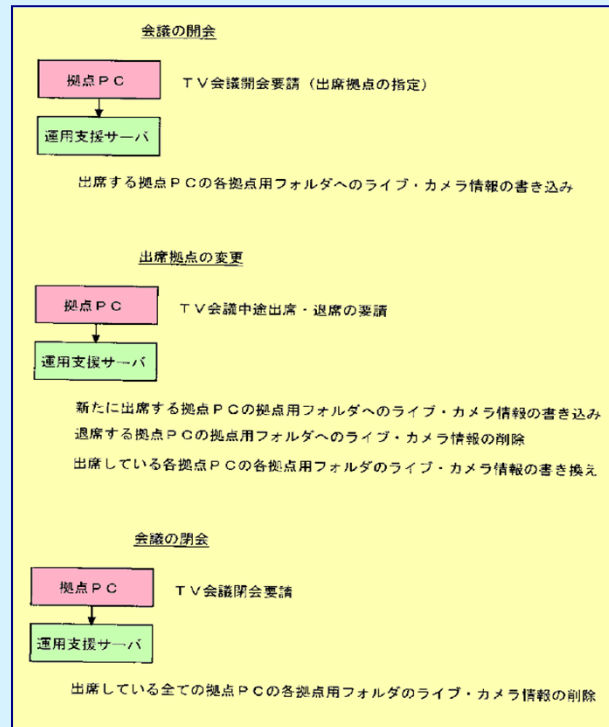
FAX: 029-282-7980

独立行政法人 日本原子力研究開発機構
産学連携推進部

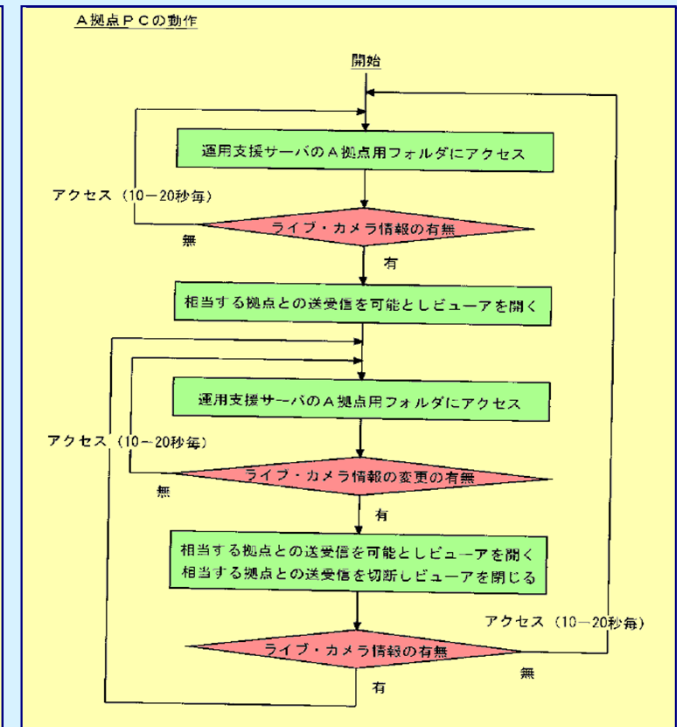
特 許 内 容

従来の問題点

多拠点通信制御装置としては、ハードウェアにより、各拠点端末から個別に送られてくる映像及び音声情報をまとめて合成映像・音声情報を作成し、それを各拠点端末に送り返し、縮小映像を表示する機能を有するものがあった。この装置では、電話回線が繋がれば会議に出席できるし、切り離されれば会議から退席できる。しかし、このようなシステムは、設備費が高価であるばかりでなく、電話回線を使用するので、電話料金が高騰するため通信費が増大し、また回線容量が限られるため、映像、音声をスムーズに伝送することは難しい等の問題がある。



【図2】運用支援サーバの接続支援動作を示す説明図



【図3】拠点PCの動作のフロー図

本特許の具体的内容

ネットワーク回路網上の支援サーバ側に、会議に出席する拠点PCの接続情報を記憶・管理する機能と開会要請に応じてライブ・カメラ情報を各拠点用フォルダに格納し、閉会要請に応じて削除する接続支援機能を搭載する。同時に、拠点PC側には、自拠点用フォルダを周期的に監視するモニタ機能と各拠点へ送信して各拠点からの受信を可能にし、ライブ・カメラ情報が削除された場合には、各拠点への送信を停止すると共に対応するビューアを終了させる接続機能を組み込んだ。